

道徳研修だより

世羅町立せらひがし小学校

平成 30 年 7 月 4 日

先週は、1年生の研究授業ありがとうございました。1学期は、道徳の授業研究を3回行い、新たな取り組みを重ねることができました。7月は、1学期の成果と課題をまとめ、研究会に向けての準備をしていきます。よろしくお祈りします。



1 道徳科の授業研究について

★1年生「もりのぷれぜんと」C 公正、公平、社会正義

〈グループ協議より〉

導入

○成果 ●改善点

- パペットの活用
- 「○○について教えてね。」と児童に投げかける。
- 児童のテンションが上がりすぎ、課題意識を持ちにくかった。

役割演技

- ペアでも全員行うことで、教材としっかり関わることができる。
- ルールを徹底する。(3・2・1・パン)
- 「ごめんね。」という児童が多かった。何が「ごめんね。」なのか聞く。

顔カード

- 表情と心情の不一致について考えさせることができた。
- 顔を選んだ理由を発表することができた。
- どこで活用するかよく考える。(適しているところとそうでないところ)
- 「うその笑顔」→「本当の笑顔ってどういうの？」

深い学び

- 発言の背景に迫る問い返しをする。
- 中心発問に時間をかける。
- 発言に対する反応をどうさせるか考える。思考が途切れないようにする。
「同じです。」「いいです。」「前に出ます。」など
- 低学年なので言葉を補ってやったり、「これを○○といいます。」などと言ったりするなど教えるべきところは教える。

〈授業評価表より〉 (%)

	評 価 項 目	4	3	2	1
		十分 できている	半分以上 できている	あまりで きていない	ほとんど できていない
主体的な学びを促す効果的な「話し合い」の工夫					
①	教材、人、自分とのかかわりを大切にした指導の工夫	32	54	14	0
	考えの違いを表現したいと思えるような深める発問を工夫している。	42	58	0	0
	ペア・グループトークを充実させている。	34	58	8	0
	児童が考えを深められるような話し合い活動を工夫している。	33	50	17	0
	明確な視点を示し、児童が自分を見つめながらふり返られるように工夫している。	20	50	30	0
②	問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	42	46	12	0
	児童が考えてみたい、深めたいと思える必然性のある課題設定になっている。	42	42	16	0
	道徳的行為に関する体験的な学習、疑似体験的な表現活動を工夫している。	42	50	8	0
③	深い学びにするための発問等の工夫	46	47	6	1
	物事を多面的・多角的に考えられるような発問をしている。	58	42	0	0
	児童生徒の発言の背景に迫ったり、考えを深めたりするような手立て（切り返し・揺さ振りなど）をしながら授業を進めている。	58	42	0	0
	適切な中心発問である。	34	58	8	0
	中心発問にかかわる時間を十分に確保している。	19	55	18	9
	ねらいと中心発問（場面）が一本になっている。	42	50	8	0
	児童生徒の発言を価値に基づいて分類し、黒板に明示している。	67	33	0	0

〈指導講話より〉

- ・中心発問に対して、「ごめんね。」からは不公平感が出にくい。不公平、悲しませた「ごめんね。」の違いを問うことで同じようにすることの大切さに気づかせる。
- ・公正、公平のよさに気づかせるためには
→おおかみの行動に視点を当てる。「どうぞ。」と言われたけど、後ろに並んだ。
「いいな。」「やってみたいな。」を前面に出す。
- ・評価 児童の実態からスタート。出てきた児童の言葉をキーワードにつなげていく。
キーワードが評価のよりどころとなる。
- ・考えさせるためには、発問が大切。
 - ①ねらいを吟味。本時の終わりにどんな言葉を言えばねらいを達成できているといえるか、具体的なイメージを持つ。
 - ②教材をしっかりと分析。教材から自分の生活へつなげていく。
 - ③発問か指示か、はっきりさせる。発問はずばっと、繰り返さず。
- ・話し合わせるために
 - ①ほかの人の意見を聞く。場の提供、方法の工夫。
 - ②教師のファシリテーション。児童の発言を繰り返さない。意図をもって指名。
 - ③子供同士の話し合いはうまく進まないもの。混乱を楽しめるくらいに。
 - ④板書の工夫。板書の活用。板書で学習が振り返られるようにする。

〈今後の取り組み〉

- しっかりと教材分析をする。
 - ・児童の実態把握をしっかりとる。(アンケートの問いの内容の吟味, 結果分析)
 - ・児童実態をもとに, 指導を考える。「どこまで考えさせるか」
 - ・深める発問「問い返し」, 「比較」
 - ・話し合いの工夫「児童同士で発言をつなぐ」
 - ・心情メーターの活用 (自分とのかかわり)
- ねらいを達成するための学習方法。(学習方法が目的にならないように。)
- 顔カードの活用 (特に低学年)。どこで, どのように活用するか考える。

2 公開研究会について



〈教材研究〉

- 教材決定
 - ・2学期の総合単元的道徳学習プログラムの重点内容項目もしくは関連項目で行う。
→そのために, 1学期のプログラムの見直しをし, 2学期の重点内容項目, 関連項目を何にするか考えておく。
※2学期の総合単元的道徳学習プログラムは, 研究会指導案に添付します。
 - ・話し合いの工夫を考える。
 - 教材分析図作成
 - ・データの場所 (研修部→授業研究→教材分析図記入用)
 - ※7月11日朝までに1部毛利までお願いします。
 - 教材分析図をもとに学年部で検討
 - ・実態把握のためにアンケートを取る場合は, どんな質問項目にしたらよいかも話し合い, 1学期中にアンケートを実施できるように準備する。
- ※教材文, 教材分析図は印刷しておきます。

3 その他

- 7月の道徳振り返り週間は, 7/17~7/20に行ってください。
 - 道徳ノートへの1学期の振り返りについて
 - ・児童の記入
 - ・保護者に見てもらう
 - ・担任がコメントを入れる
- ※7/10までに毛利まで
(7月の道徳だよりで, 各学年の振り返りを数名ずつ載せます。ご協力をよろしくお願ひします。)